

予算決算常任委員会活動評価総括表(平成29年度)

1 委員会活動の振り返り(委員間討議の結果の概要を記載する)

(1) 年間活動計画の進捗度

- ・計画していたものは予定通り行えた。
- ・参考人招致も時期的に良かった。

(2) 委員会運営の円滑度

- ・働き方改革調査特別委員会の内容を受けて、執行部の委員会への出席者の簡素化に取り組んだ。
- ・総括質疑の進行については、昨年度に引き続き、委員長が午前、副委員長が午後と分けて実施した。このことは次期に引き継いでいただきたいが、副委員長が進行中は委員長が在席できないことについては、引き続き検討課題である。
- ・昨年度の引継ぎ事項で実施したものとしては、総括質疑の際、質疑者の待機席を演壇の後ろに設置した点がある。良かった点は、見る人にとっては誰が発言しているのかが分かりやすくなったし、質疑者は正面から執行部の答弁を聞くため相手の表情もわかりよかった。課題としては、待機席が遠くなった点がある。この件については、引き続き検証してはどうか。また、待機席に座らずに対面で立ったままの方が見た目もいいので、この点も検討してはどうか。
- ・昨年度の引継ぎ事項で取り組めなかったものとしては、総括質疑の順番がある。質疑は多数派会派の順になっているが、後半だと質疑内容が重なる場合がある。同一会派が昼休みで分断するのは好ましくないが、午前の隙間の時間に少数会派が質疑を行うやり方があっていいのではないかといい意見が昨年度にあったので、次期で検討してはどうか。

(3) 議員間討議の充実度

- ・昨年度の意見にもあったが、各分科会で議論してきたものであり、難しいところがある。
- ・議員間討議という形ではなかったが、正副委員長の取り計らいもあり、意見が言いやすく議論は十分にできた。

(4) 県内外調査の充実度

- ・県外調査は福島も横浜も良かったし、議会のマニュアルの見直しにつながった。
- ・福島については実際の状況が分かり、議会が災害対策本部を混乱させないためにどう整理していたかがわかった。
- ・横浜は国直轄を分割払いにするなど参考になった。財政健全化に向けた取り組みを着実に実行しており、参考になった。

(5) 県民など多様な意見を活用した調査・審査の充実度

- ・参考人招致では、主に国の財政の動きが中心で、地方財政の話が聞けず残念だったが、大きなフレームなど改めて確認もできた。
- ・財政制度の勉強ができて良かったし、引き続き学ぶ必要がある。

(6) 調査・審査結果の施策への反映

- ・執行部への意見については反映できた部分があったと思う。
- ・今年度の予算編成は禁じ手と言われているが、議会として何かできなかったのか。厳しい財政状況は理解できるが、議会のチェック機能として予算決算常任委員会があり、一定のクギを刺す必要はある。

2 各委員（理事）の評点の平均点

項目	評価の視点	平均点
(1)年間活動計画の進捗度	<p>年間活動計画の内容は適切なものでしたか。</p> <p>重点調査項目について十分な調査・審査を行いましたか。</p> <p>年間活動計画に沿って委員会活動を行いましたか。</p> <p>(その他、評価の理由等(自由記載))</p> <p>・例年どおりできたと思う。</p>	4.0
(2)委員会運営の円滑度	<p>すべての議案・事項を丁寧に調査・審査しましたか。</p> <p>委員会で十分な議論をしましたか。</p> <p>委員長報告が各委員の合意したものとなるように努めましたか。</p> <p>(その他、評価の理由等(自由記載))</p> <p>・待機席の移動、答弁者の簡素化等、新しい試みができる。</p> <p>・総括(的)質疑における時間配分を少数会派にもっと多くすべきではないか。</p> <p>・総括質疑において1人会派の5分間は議論が深まらない。3回ある総括(的)質疑の機会を1人会派で割り合って、少なくとも10分間を年1回実施することも検討してはどうか。</p>	4.3
(3)議員間討議の充実度	<p>議員間討議の機会を十分に活用しましたか。</p> <p>議員間討議を十分に行いましたか。</p> <p>議員間討議を通じて合意形成を図るよう努めましたか。</p> <p>(その他、評価の理由等(自由記載))</p> <p>・委員長報告に対する執行部対応について、不適切な誠意ない答弁に対して委員長の計らいによって、すぐに対応していただいた。</p>	3.6
(4)県内外調査の充実度	<p>県内外調査の調査先は適切でしたか。</p> <p>調査先で十分な調査を実施しましたか。</p> <p>県内外調査における内容をその後の調査・審査に活用しましたか。</p> <p>(その他、評価の理由等(自由記載))</p> <p>・大規模災害等の議会マニュアルに反映されつつある等、充実した。</p>	4.3

項目	評価の視点	平均点
(5) 県民など多様な意見を活用した調査・審査の充実度	<p>「参考人招致」や「公聴会」における意見をその後の調査・審査に活用しましたか。</p> <p>「みえ現場de県議会」における県民の意見をその後の調査・審査に活用しましたか。</p> <p>「みえ高校生県議会」における高校生の意見をその後の調査・審査に活用しましたか。</p> <p>「請願」、「議員勉強会」、「県民の声」などにおける意見をその後の調査・審査に活用しましたか。</p> <p>(評価点の理由や気づいた点があれば、記載してください。)</p> <p>・総括質疑の際、質疑者の質疑開始時間が分からないとの県民の声を受け、事項書に開始予定時間を追記し、改善を図った。</p>	3.9
(6) 調査・審査結果の施策への反映	<p>調査・審査の結果、施策へ反映したこと(例えば、経過報告を求めた、知事への申し入れを行った、議員提出条例の検討を行ったなど)について記載してください。</p> <p>・平成30年度当初予算(案)の説明が議案聴取会で不十分・不適切であった点やこれまでの予算議論・委員長報告等を踏まえた予算編成とするなど、改善するよう委員会として指摘を行い、予算の執行方法を見直すなど、一定の改善を図ることができた。</p>	

※評価は5点満点です。(5点・・・大変良くできた、4点・・・良くできた、3点・・・概ねできた、2点・・・あまりできなかった、1点・・・できなかった)

※各項目の自由記載欄については、各委員個人の意見を掲載しております。